（別紙1）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	宇地原敏夫	所　属	理学部海洋自然科学科（化学系）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	1)共通教育（化学I）、専門教育（光化学、化学熱力学、反応速度論、基礎ゼミ）および大学院（光触媒化学特論）の授業を担当する。パワーポイントおよび配布資料を多用し、わかり易い授業を目指す。 2）研究室配属の大学院学生および学部学生の研究指導を丁寧に行なう。	0.35	1)　共通教育（化学I）、専門教育（光化学、化学熱力学、反応速度論、基礎ゼミ）および大学院（光触媒化学特論）の授業を担当した。受講生および受講者数に対応して、教科書およびおよびパワーポイント、配布資料を使い分けて、わかりやすい授業を心掛けた。学生の評価はまずまずであった。 2）修士研究、卒研・セミナーを通して、研究室学生の指導を丁寧に行った。
研究	0.35	1)半導体/有機高分子複合膜の超高速分光（発光）についての研究をまとめる。2）9月に横浜市で開催される光化学討論会でその成果の一部を発表する。3）昨年度までのCdS/有機高分子複合膜の発光アップコンバージョン測定に関する研究成果の第2報を国際誌に投稿し、受理を目指す。4)11月に大阪で開催され「アジア・オセアニア国際光化学会議」のLocal Committeeメンバーとして運営に協力する。	0.35	1)半導体/有機高分子複合膜の超高速分光（発光）についての研究の総まとめを始めているが、まだ雑誌投稿には至ってない。　2）昨年9月に東工大で開催された光化学討論会で、上記1）の成果の一部を発表した。　3）昨年11月に阪大で開催された「アジア・オセアニア国際光化学会議」で上記1）の研究成果の一部を発表した。更に、Local Committeeメンバーとして運営に協力した。　4）昨年12月に阪大工学部で上記1）についての講演を行った。
社会貢献	0.05	1)八重瀬町の都市計画審議会委員としての役割を果たす。 2）浦添市に新設予定の生活環境保全審議会委員（予定）としての役割を果たす。	0.05	1)八重瀬町の都市計画審議会委員として審議会に出席し、委員としての役割を果たした。　　2）浦添市に新設予定の生活環境保全審議会が未設置のため、特に対応することがなかった。
管理運営	0.15	1）理学部自己評価委員会副委員長として委員会運営に協力する。 2)系内広報委員会委員として、優秀な受験生獲得に向けて、高等学校での広報活動の企画・実践に積極的に協力する。 3）退職に向けて、実験室・居室の片づけ等、残務整理を確実に行う。	0.15	1）理学部自己評価委員会副委員長として委員会運営に協力した。　2)系内広報委員会委員として、優秀な受験生獲得に向けて、高等学校での広報活動の企画・実践に協力した。さらに、6月に行われた与勝高校での出前授業（理学部対応）で、化学系紹介を担当した。　3）実験室の試薬・廃液の処理を全て済ませた。その他退職準備を順調に行っている。
進路指導	0.10	1）4年次指導教員（就学担当）として、卒業に向けて、学生の単位取得状況の把握と就学指導を適切に行う。 2）研究室に配属された大学院学生および学部学生の進学・就職活動状況について、定期的に報告を受け、適切な指導を行なう。	0.10	1）4年次指導教員（就学担当）として、学生の単位取得状況の確実な把握と就学指導を丁寧に行った。また、最終学年でない4年次へも、進級に向けて丁寧な就学指導を行った。2）研究室に配属された大学院学生および学部学生の就職活動状況について、適切な指導を行ない。就職決定に協力した（就職内定2名、公務員浪人1名）。
その他	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	田中淳一	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	共通教育の「化学入門」「化学II」「化学入門II」、専門教育の「海洋有機化学」「海洋有機化学実験」「基礎ゼミ」については、学生の知的好奇心を促すような授業になるよう努力する。専門の「卒業研究」「セミナー」は最新の研究を授業に反映させる。	0.35	共通教育の「化学入門」「化学II」「化学入門II」、専門教育の「海洋有機化学」「海洋有機化学実験」「基礎ゼミ」を担当した。専門の「セミナー」では、英語の教科書を使用して学ばせるとともに、「卒業研究」「特別研究」では研究指導を行い、学部３人、修士２人を送り出す予定である。博士の副査も担当した。
研究	0.35	研究成果を国際誌に5報以上発表する。また、学会発表を数回行う。研究費は、継続の科研の他に、共同研究、受託研究、寄付金等をできるだけ受け入れ、研究の発展につなげるようにする。学内のサンゴ礁ハブ形成プロジェクトにも応募する。	0.35	2012年には研究成果を共同研究者とともに国際誌に7報の発表を行った。研究成果については、招待講演を2回行った。研究費は継続の科研１件、受託研究2件、共同研究１件、寄付金１件を受け入れた。学内のサンゴ礁ハブプロジェクトも受け、大学院生の研究の発展に使用した。
社会貢献	0.10	海洋天然物化学関連の企業「Pharma Mar」および「OP Bio」と共同研究を継続し、これらの製薬関連企業の発展に貢献できるようにする。Pharma　Marとは新規細胞毒性物質を、OP Bioとは新規細胞壁合成阻害物質の探索を通して協力する。	0.10	「Pharma Mar」との共同研究は相手方の経済事情のため中止になったが、「OP Bio」とは抗真菌剤の探索事業で、「Meiji Seika ファルマ」とは抗感染症ならびに抗炎症疾患関連の探索事業で、共同研究をすすめている。県内の自治体および企業の委員としても参画している。
管理運営	0.10	本年度の系と学部の委員を責任をもって務める。特に代議会と留学生関連の委員会では化学系の意見等を述べるとともに、フィードバックを図り、不利益にならないように努める。	0.10	代議員として出張時以外は会議に出席し、学部内での決定事項について系内に連絡をおこなった。留学生関連では、OIMAP委員会、アジア・太平洋地域との大学院生の国際連携教育の委員会に出ている。
進路指導	0.10	本年度は4年次指導教員で、就職担当ということなので、会社から来る求人および担当者との対応を行う。さらに、会社からの案内等はメーリングリストで4年次および修士2年次学生に直ちに伝え、できるだけ就職率が上がるように努力する。	0.10	４年次の就職担当ということで、会社との面談、求人情報の学生への伝達を行ってきた。その結果、県内企業からの求人に対し、無事に応募、内定をもらった学生もいた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙1）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	高良　聡	所　属	理学部海洋自然科学科化学系	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	正規の授業科目に加え、化学系学生の科学英語力向上を目指した「基礎科学英語勉強会」を主催する。また、研究室所属学生を対象とする「雑誌会」および「勉強会」を実施し、最先端の研究の理解ならびにプレゼンテーション技法について実践的指導を行う。	0.25	「基礎科学英語勉強会」は開催しなかった。週一回の「雑誌会」および「研究報告会」において、前者では最先端の研究に関する論文の紹介を通して専門分野に精通するよう指導し、後者では、発表内容の精査のみならず、発表技法についても実践的指導を行った。
研究	0.25	得られた研究成果を学会（日本化学会年会または錯体化学討論会）で発表し、学術論文として投稿する。	0.25	学術論文2報を報告した（*Polyhedron* **2012**, *45*, 152–157および*X-ray Structure Analysis Online* **2012**, *28*, 57–58）。いずれも査読あり、主著者である。
社会貢献	0.15	化学系広報委員としての活動と連携し、出前授業や体験実験などを行う。	0.15	出前授業などの要請はなかった。「化学への招待」において実行委員ならびに測定機器見学を担当した。錯体化学第63回討論会（琉球大学、2013年11/2～4、1200名程度の参加者数見込み）の実行委員会事務局長の活動の一環として、沖縄観光コンベンションビューローからの学会支援金を獲得し、その他討論会開催に向けての準備作業（会場確保、事務作業、ホームページ開設など）を行なった。
管理運営	0.20	理学部将来計画委員会委員、化学系評価・将来計画委員会委員長ならびに広報委員会およびカリキュラム委員会委員を務める。また、日韓共同理工系学部留学生実施委員として従事する。	0.20	理学部将来計画委員会は招集されなかった。化学系評価・将来計画委員会委員長として中期目標／中期計画に関わる重要書類等の作成に従事した。化学系広報委員として系ホームページの英語化に携わった（英訳チェックなど）。カリキュラム委員として共通教育化学関連講義の整備に従事した。日韓共同理工系学部留学生実施委員会は招集されなかった。
進路指導	0.15	必要に応じて個人面談などを行いながら研究室学生の希望進路を把握し適切な指導をする。	0.15	個人面談による指導により所属研究室の学生１名が本学大学院へ進学した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	米藏　誠哲	所　属	理学部・理工学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	・共通教育科目・化学入門（今年度後期より担当）の準備をする。	0.00	・共通教育科目・化学入門を新規担当した（今年度で担当終了）。
研究	0.55	・これまでの研究（全生体ソフト物質ダイオード・石けん膜電気泳動）をまとめ公表する。 ・混和性ラチェット・pH駆動断熱ポンプを検討する。 ・科研費研究の新テーマ（石けん膜マランゴニ輸送）に着手する。	0.00	・全生体ソフト物質ダイオードは投稿準備中である。 ・卒業研究において混和性ラチェットやイオンポンプの検討・研究を実施した。 ・科研費研究である石けん膜および液膜電気泳動の実験は終了した。
社会貢献	0.05	・県内高等学校の生徒を対象に化学系の紹介または物理化学分野の研究紹介を行う。	0.00	・３月までに高校訪問を実施予定である。
管理運営	0.10	・理学部委員会（教育・研究推進委員会）委員の仕事をする。 ・化学系委員会（カリキュラム・評価将来計画委員会）の仕事をする。 ・その他の学内委員の活動を行う。	0.00	・理学部委員会（教育・研究推進委員会）委員の仕事をした。 ・化学系委員会（カリキュラム・評価将来計画委員会）の仕事をした。 ・その他の学内委員の活動を行った。
進路指導	0.05	・卒業研究生（2名）について情報提供、提出書類の内容検討等を行う	0.00	・卒業研究生（2名）は公務員等を希望しており進路指導はしていない。試験や健康状態等を考慮して卒業研究を指導し卒業させた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	大出　茂	所　属	理学部海洋自然科学科化学系	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	(1)海洋化学概論、海洋無機化学の授業に核化学の内容を加え、ビデオ等の視聴覚教材を使って、授業の充実をはかる。(2)一般教育科目、化学実験で留学生をTAとして採用し、その資質の向上に努める。(3)海洋無機化学特論の大学院授業ではOpen Univ.(英放送大学)のテキストを使用し、大学院生の英語力の向上をはかる。(4)特別プログラム留学生対象の授業では、英語論文の書き方を講義内容に含める。	0.30	(1)海洋化学概論、海洋無機化学の授業に溶液化学の内容を加え、DVD等の視聴覚教材を使って、授業の改善を行った。(2)一般教育科目、化学実験で留学生をTAとして採用し、その資質の向上に努めた。(3)海洋無機化学特論の大学院授業ではOpen Univ.(英放送大学)のテキストを使用し、大学院生の英語力の向上をはかるように務めた。(4)特別プログラム留学生対象の授業では、英語論文の書き方を講義内容に含めた。(5)教職実践演習(来年度開講予定教職科目)のシラバス作成等の準備に携わった。
研究	0.45	(1)学会誌または電子ジャーナルへ論文を投稿し、受理をめざす。(2)シェフィールド大学(英国)、ケンブリッジ大学(英国)との共同研究を推進する。(3)タイ湾サンゴ礁環境調査をチュラロンコン大学、キングモンクット工科大学の研究者と行う。	0.45	(1)論文3編が電子ジャーナルJour. Geochem. ExplorationおよびMarine Chemistry誌に受理、掲載された。(2)シェフィールド大学、ケンブリッジ大学(英国)との共同研究を行い、その成果を電子ジャーナルへ投稿中である。(3)タイ湾サンゴ礁環境に関する共同研究をチュラロンコン大学、キングモンクット工科大学の研究者、大学院学生と一緒に開始し，相互交流を行った。
社会貢献	0.10	(1)教員免許状更新講習の講師を務める。(2)沖縄県環境アセス委員会委員として委員会活動を通して沖縄県の環境行政に協力する。(3)沖縄県深層水組合が企画している深層水利用に関して学術的見地からアドバイスを行う。(4)PANORAMA社(タイ)が企画する海洋教育番組の製作に協力する。	0.10	(1)教員免許状更新講習(1日)の講師を務め，講義，実習を行った。(2)沖縄県環境アセス委員会委員として、那覇空港第二滑走路建設、普天間基地移転等の環境影響評価審議会活動を通して沖縄県の環境行政に協力した。(3)沖縄県深層水組合が企画している深層水利用に関して学術的見地からアドバイスを行った。(4)パノラマ社(タイ)が企画した海洋教育テレビ番組の製作に協力した。(5)沖縄市地下水ヒ素汚染問題に関して水質化学の見地から新聞取材に協力した(琉球新報12月11日、1面記事)。
管理運営	0.10	(1)理学部予算配分検討委員会委員および化学系予算委員会委員長を務める。(2)附属図書館運営委員会委員(同自己点検評価委員会委員)として，図書館運営に協力する。(3)放射線安全委員会委員を務める。(4)OIMAP委員会委員として留学生特別プログラム運営に協力する。(5)キングモンクット工科大学(タイ)との大学間交流協定締結のために工学部と協力し、MOU作成の準備を行う。	0.10	(1)理学部予算配分検討委員会委員および化学系予算委員会委員長を務めた。(2)附属図書館運営委員会委員(同自己点検評価委員会委員)として，図書館運営に協力した。(3)放射線安全委員会委員を務めた。(4)OIMAP委員会委員として留学生特別プログラム運営に協力した。(5)キングモンクット工科大学(タイ)との大学間交流協定締結のために工学部教員と連携、協力し、MOU締結に携わった。(6)理学部教職WG委員として教職関連科目のカリキュラムの充実に関わった。
進路指導	0.05	(1)卒業研究の指導教員として，所属している4年生2名の就職，進学指導を行う。(2)大学院学生3名(留学生2名)の進路指導を行う。	0.05	(1)卒業研究の指導教員として，所属している4年次学生2名の就職指導を行い、1名は沖縄県および埼玉県教員採用試験(中学理科)に合格し、沖縄県教員への就職が内定した。もう1名は琉球大学大学院へ進学予定である。(2)大学院学生3名(留学生2名)の進路指導を行った。9月卒業の留学生はホノルル水族館(学芸員)に就職した。また、来学期9月博士後期終了予定の留学生は母国インドネシアの大学講師に内定した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	堀内敬三	所　属	理学部 海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.45	・「化学Ⅰ」、「物理化学Ⅰ」、「物理化学Ⅱ」、「化学統計熱力学」の講義内容をより分かり易く、かつより充実させるように改訂を行う。 ・「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」、「計算化学特論」の内容を整理し、事前の準備をしっかり行う。 ・「基礎ゼミ」についてはレポートの書き方などをきちんと指導する。	0.45	・「化学Ⅰ」、「物理化学Ⅰ」、「物理化学Ⅱ」、「化学統計熱力学」の改訂を行った。「物性物理化学A」の準備（以前の講義ノートの改訂）を行った。 ・「X線構造解析特論」と「磁気共鳴特論」、「Principles of Structure Determination」の講義内容の改訂を行った。
研究	0.15	・国際誌に学術論文（二重融解、構造相転移、常磁性体のスピンダイナミクス）を投稿する。 ・学外研究者との共同研究（亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動）を推進する。	0.10	・国際誌に学術論文が1報掲載された。その他にも現在投稿準備中である。 ・論文を共著するなど、学外研究者と共同研究を推進することができた。
社会貢献	0.15	・高校生および一般市民を対象に公開授業（「化学Ⅰ」）を行う。 ・県内高校への出前講座を実施する。 ・教員免許更新講習の講師を担当する。 ・日本化学会九州支部幹事、日本化学会九州支部化学教育協議会幹事を務める。 ・沖縄県理科・化学教育懇談会会長を務める。	0.20	・公開授業（「化学Ⅰ」）に1名の社会人受講者がいた。 ・教員免許更新講習の講師を2件担当した。 ・「化学グランプリ」の1次選考会場の責任者、「化学フォーラム」の開催責任者等を努めた。 ・「化学への招待」の開催責任者を努めた。
管理運営	0.20	・全学委員会（アドミッションオフィス会議、全学学士教育プログラム委員会）の理学部委員を務める。 ・県外で開催される進学相談会・説明会で大学の紹介を行う。 ・理学部エコ推進委員会委員を務める。 ・化学系2年次指導教員を努める。 ・化学系カリキュラム委員会の委員長を務める。	0.20	・全学学士教育プログラム委員として、化学系の教育プログラムの整備を行った。 ・名古屋と大阪で行われた進学相談会・説明会で大学の紹介を行った。 ・カリキュラム委員会の委員長として、共通教育の先修科目等の改訂を行った。
進路指導	0.05	・卒業研究担当学生の進路指導を行う。	0.05	・担当した2名の就職が内定した（1名は県外企業、1名は沖縄県警）。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	比嘉　松武	所　属	理学部海洋自然科学科化学系	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	「化学Ⅱ」：受講生の「コメント」中の質問に対する回答の時間を設け、より授業方法の改善を図る。「有機立体化学」、「有機機器分析」：演習問題を効果的に取り入れ、より講義の双方向化を図る。「基礎ゼミ」：卒業研究や文献セミナーの体験学習等により、3年後の「卒業研究」の基礎となる「専門基礎科目」の勉学に意欲を持たせる。	0.35	「化学Ⅱ」：講義のはじめに前回のコメント中の質問について答え、これまでの復習とその日の講義の導入部とした。「有機立体化学」、「有機機器分析」：演習問題を大幅に増やして、受講生に質問しながら解答を導き出すようにし、講義の双方向化を図った。「基礎ゼミ」：実験装置をスケッチさせてその仕組みについて討論したり、研究室の「論文セミナー」、「実験報告」等に参加させ卒研性と討論させた。
研究	0.35	「アワダンの成分研究」：新規フラボノイドの構造と生物活性に関する論文１篇を国際学術誌に投稿する。「リュウキュウガキの成分研究」：新規ナフトキノノイドの構造と生物活性に関する論文2篇を国際学術誌に投稿する。	0.35	「アワダンの成分研究」：掲載 Isolation of Six New Flavonoids from Melicope triphylla, M. Higa et. al., Chem. Pharm. Bull., 60 (9), 1112—1117 (2012)、受理 Isolation of Five New Flavonoids from Melicope triphylla, M. Higa et. al., Chem. Pharm. Bull.「リュウキュウガキの成分研究」：論文二篇を作成中。
社会貢献	0.05	「沖縄市公害対策審議会」：審議会副会長として、沖縄市の公害対策行政に協力する。「理学部体験ツアー」：オープンキャンパスと並行して開かれる行事で、来場者に興味ある有機化学実験を体験して貰い、高校生や一般市民の理科離れに対処する一助としたい。	0.05	「沖縄市公害対策審議会」：市長より諮問のあった「公害防止協定の締結」について審議し、来年度の審議計画を策定した。「理学部体験ツアー」：大学の有機化学実験の一部をアレンジした一般向けの実験を用意し、オープンキャンパスに訪れた高校生に体験してもらった。
管理運営	0.20	系内の「履修方法等検討委員会」の委員として、化学系の履修方法等の改善を図る。また、学部内委員会の委員として携わる。	0.20	「化学Ⅰ・Ⅱ」の教科書の統一に関連して、担当者等の変更が行われた。共通教育等における負担が減少したので時間割編成に余裕ができると思われる。修士の特論科目が乱立しているという指摘が伝わってきたが、カリキュラム委員会との兼ね合いもあり本委員会では議論されなかった。
進路指導	0.05	週１回の「文献セミナー」の後で、就職（就職活動状況、就職セミナーの活用など）、進学（進学計画状況、研究テーマなど）について研究室の4年次学生と談話する。また、研究室の卒業生との懇談および職場訪問も行いたい。	0.05	セミナー終了後、就職等について卒研生と討論した。卒研生の就職活動は順調に進み一部内定もでたので、卒業生の職場訪問は行わなかった。また、公務員を目指して試験勉強中の卒業生とも連絡を取り合い励ましてきたが、無事市役所に合格した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	安里英治	所　属	理学部海洋自然科学科（化学系）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	1）基礎ゼミを利用して入門書的なテキストを用いた勉強会を実施し、早い段階から化学的物質観が育くまれるよう修学支援する。 2）今年度から受け持つ「化学入門」では、授業内容に加えて補助教材にも工夫を施し、化学未履修生でもその内容が理解できるようつとめる。 3）正規の授業以外に「雑誌会」を毎週開催し、最近の研究分野の動向を学生とともに学ぶことで研究室所属学生の資質向上に努める。	0.25	1）基礎ゼミで「数学いらずの分子軌道論」をテキストに用い、新入生が化学結合の本質を理解するための基礎学習支援を行った。 2）新しく担当した「化学入門」では毎回の講義終了時にクイズ形式の小テストを実施し正解者に加点する評価制度を取り入れた結果、受講生の出席率アップと集中力向上につながり、学生の理解向上に役立った。 3）前・後期の毎週、高良研究室と共同で「雑誌会」を行い、研究室所属学生の研究指導に役立てた。
研究	0.25	1）佐賀大、山形大との共同研究「プロトン共役電子移動を利用する多核金属クラスターの磁気特性スイッチング」を推進し、学会で成果報告を行う。 2）研究成果を国際誌へ1報以上投稿する。 3）錯体化学会会員として、例えばポスター賞審査員等の役割を通して「錯体化学討論会」運営に協力する。	0.25	1）佐賀大、山形大との共同研究の一部を錯体化学討論会で報告した（一件）。 2）上記研究成果として1報（国際誌）が採択され、さらに別課題の研究を論文発表した（国際誌１報）。 3）「錯体化学討論会」において特別理事として理事会に出席し、学会運営に協力した。 4）北九州高専との「複合酸化物の調製法開発」に関する共同研究がまとまり、原稿執筆を終えた。春季休暇中に投稿予定。
社会貢献	0.05	1）県内高校へ出向き、化学系の紹介を行い化学系受験生増へ務める。	0.05	1）今年度は高校側からの訪問依頼が少なかったため、高校訪問は実現しなかった。 2）日本化学会主催の「化学への招待」、理学部主催「理学部体験ツアー」では終日ボランティアとして参加し、両イベントの成功に協力した。 3）来年度の錯体化学討論会（錯体化学会主催）の誘致に成功し、実行委員長に就任した。錯体化学は触媒、医学、工学等とも関係が深く、地元関連企業とのつながりを作るきっかけ作りができた。
管理運営	0.40	1）海洋自然科学科長、化学系長として、学部、学科、系の円滑な運営に務める。	0.40	1）海洋自然科学専攻長、海洋自然科学科長、化学系主任として研究科、学部、学科、系の全ての必要会議に出席し、結果として円滑な運営に協力できた。 2）特に化学系主任として3件の昇任人事、2件の採用人事に関わり、優秀な人材の確保、昇任に貢献できた。
進路指導	0.05	1）研究室所属学生（M2：1名、M1：2名、B4：2名）に対し、県内外企業等に関する情報提供を続け、就活意識を高めるとともに就職の実現を手助けする。大学院進学希望者には情報提供の他、学問的アドバイスによりその実現を手助けする。	0.00	1）卒業、修了対象の学生3名を無事、卒業・修了に導き、卒業生2名の大学院進学を実現させた。修了生1名は就職活動をサポートしたにもかかわらず、3月現在、内定が得られていない。現在、OISTの分析技官としての臨時採用の話が進行中。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.95	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	漢那 洋子	所　属	理学部	職　名	講師→准教授（7月以降）

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	●化学系専門必修科目「物理化学実験」に新たに情報化学の実習・演習を導入する。●化学系専門選択科目「アドバンスト物理化学」の講義中に演示実験を取り入れる。●光化学を題材にした科学教育の実践を取りまとめ、報文を執筆する。	0.24	●「物理化学実験」に情報化学の講義・実習・演習を導入した。特に化学における情報学（化学情報のあらましと調査・検索法）に関するテキストを作成、履修学生に配布した上で行った。●「アドバンスト物理化学」は物理化学系全体および教務上の都合で開講されなかった。●来年度以降の物理化学分野のカリキュラムおよび担当者変更と関連して分野のメンバーと共に全体的な方針・シラバス等を議論し決定した。●来年度の新規担当講義「化学Ⅰ」「量子化学Ⅱ」「反応速度論」について準備を始めた。●修士論文および卒業研究発表会の準備・運営・指導を行なった。
研究	0.35	●血清アルブミンと結合した有機分子の光反応ついて、論文を執筆・投稿する。●イオン液体物質存在下における色素分子の挙動について実験研究を行う。	0.24	●ポリグルタミンを有する巨大有機分子の溶媒に依存する光環化反応について論文発表を行った（1報：Photochem. Photobiol. Sci.誌）。●ヒドロキシカルコン類の励起状態における水素原子移動反応について論文発表を行った（1報：Res. Chem. Intermed.誌）。●アリールアセチレン基を有するスチルベンの光異性化反応について論文発表を行った（1報：J. Photochem. Photobiol. A 誌）。●『光化学の事典(仮)』について、光環化反応の項目の原稿を依頼され執筆・提出した。●分子液体中イオン液体存在下の実験に引き続き、イオン液体そのものを分子環境とした蛍光色素の挙動の実験を始めた。●国際沖縄研究所の併任教員として「ジェンダーと自然科学」に関する研究に着手した。
社会貢献	0.10	●今年度の「教員免許状更新講習」において、本学提供の選択領域科目として、1講座を担当する。●公益法人日本化学会の代表正会員として化学教育・普及活動等を行う。	0.24	●国際誌より依頼され論文の査読を実施した（1件）。●演示実験を含めた出前講義を依頼され、沖縄県立与勝高校で「光化学」紹介の出前講義を行なった。●沖縄県立総合教育センター適応教室の担任および通級高校生の化学系見学（講義と学生実験）の受入をアレンジ・実施した。●オープンキャンパスにおける企画「女性研究者による自然科学系分野の紹介」で理学系自然科学や化学・光化学を紹介する講演を行なった。●今年度の「教員免許状更新講習」（離島：宮古島開催）において、本学提供の選択領域科目として「光と物質―色と化学変化―」を開講した。●沖縄県内の高校生1名をインターンシップ生として研究室に受入れ指導した。●第35回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行った。●日本化学会の代表正会員として化学教育・普及活動に努めた。
管理運営	0.15	【全学】●附属図書館運営委員としての仕事を行う。●男女共同参画室室員としての仕事を行う。【理学部】●理学部図書委員としての業務を行う。【化学系】●化学系履修方法検討委員としての業務を行う。●化学系施設・安衛法対策委員としての業務を行う。	0.24	【全学】●男女共同参画室室員として女性研究者支援等に関する議論や企画に加わり、その仕事を行なった。●図書館運営委員については現担当教員の任期等の都合により予定を変更して来年度に引き継ぐことになった。●【理学部】理学部図書委員会全体の活動は無かったが、化学系メンバーより導入の要望があるデータベースに関して、委員個人として化学情報協会からの情報収集・検討を行なった（進行中）。【化学系】●化学系履修方法検討委員として、共通教育の講義科目について担当者割り振りの仕事を行った。また、化学系専門教育の物理化学分野および大学院の科目に関連して、便覧改訂・配当表作成および教職に関する科目の課程認定の書類作成を行った。●化学系施設・安衛法対策委員として系共通の実験室利用等に関する議論に加わった。●化学系の物理化学分野担当助教採用のワーキンググループのメンバーとして教員公募および選考に関する仕事を行った。
進路指導	0.05	●当研究室に所属する学生に対して、それぞれの希望する進路に配慮した指導や情報提供を行う。	0.04	●研究室に所属する学生に対して希望する進路に配慮した指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	藤村弘行	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	(1)分析化学I、サンゴ礁の化学、分析化学実験の講義内容の改善を行う (2)大学院の学生に最新のトピックスを紹介する (3)卒業研究学生と論文の講読、研究の発展的部分の解説、実験と野外調査における安全教育を行う。	0.30	(1)分析化学I、サンゴ礁の化学、分析化学実験の講義内容の改善を行った (2)大学院の学生に最新のトピックスを紹介した (3)卒業研究学生と論文の講読、研究の発展的部分の解説、実験と野外調査における安全教育を行った。
研究	0.35	(1)国際誌へ論文を投稿し、受理を目指す (2)国内学会発表(1件)と国際学会発表(1件)を行う (3)理学部サンゴ礁ハブ形成プロジェクトで成果発表を行う (4)科学研究費へ応募する (5)科学研究費の研究分担者として、県内離島での調査に参加および試料の分析を行う。	0.35	(1)第一著者ではないが共同研究での論文が国際誌に受理された (2)国内学会発表(1件)と国際学会発表(1件)を行った (3)理学部サンゴ礁ハブ形成プロジェクトで成果発表を3月末に行う予定 (4)科学研究費へ応募した (5)科学研究費の研究分担者として、県内離島での調査に参加および試料の分析を行った。
社会貢献	0.15	(1)沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事として化学フォーラムを企画・運営する (2)日本サンゴ礁学会の評議員・広報委員長として学会の広報活動を行う (3)分析化学特別実習のインターンシップにより学生のキャリア教育に協力する (4)サンゴ礁保全プロジェクトに協力する	0.15	(1)沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事として化学フォーラムを企画・運営した (2)日本サンゴ礁学会の評議員・広報委員長として学会の広報活動を行った (3)分析化学特別実習のインターンシップにより学生のキャリア教育に協力した (4)サンゴ礁保全プロジェクトに協力した
管理運営	0.15	(1)理学部広報委員会の委員長としてオープンキャンパスなどでの広報活動を行う (2)化学系のカリキュラム委員および広報委員長として活動を行う　(3)県内または県外の高校で琉大化学系の紹介活動を行う	0.15	(1)理学部広報委員会の委員長としてオープンキャンパスなどでの広報活動を行った (2)化学系のカリキュラム委員および広報委員長として活動を行った　(3)県内または県外の高校で琉大化学系の紹介活動を行った
進路指導	0.05	(1)就職希望および大学院進学希望の4年生、大学院生に進路指導を行う (2)2年次指導教員として懇談会などを通して進路指導を行う	0.05	(1)就職希望および大学院進学希望の4年生、大学院生に進路指導を行った (2)2年次指導教員として懇談会などを通して進路指導を行った
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	土岐　知弘	所　属	海洋自然科学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	研究室において，教科書を読む時間を設けて，専門教育の基礎から教える。セミナーは発表の技術を習得する場として，何が良い発表かを自ら手本となって教える。	0.25	教科書読みの他，最新論文を持ち寄って紹介し合った。発表の模範はやらなかったが，発表のコツについてセミナーで説明した。
研究	0.30	学会発表において，昨年度の卒研での成果を発表する。ここ数年で集められた沖縄の天然ガスに関するデータを論文化する。溜まっている鳩間海丘海底熱水系のデータを論文化する。	0.30	沖縄の天然ガスのデータの論文化は行った。それとは別に，総説にまとめたものが査読から戻ってきて，現在マイナーリビジョンの改訂中である。鳩間海丘の論文は書き終わったので，これから投稿する。
社会貢献	0.15	化学系の高校への説明会に行き，研究成果を高校生に紹介する。	0.10	都合がつかず行っていない。オープンキャンパスに参加し，ガスクロの演示測定を行ったが，大変な盛況で大成功であった。
管理運営	0.20	安衛法委員として，稼働率の低いスペースの活用を推進する。乗船委員として乗船実習に参加し，実習内容を紀要に報告する。	0.15	240を管理しつつ，全学年に開放してあるので，稼働率は上がったと思う。乗船実習には参加したが，紀要ではなく卒論としてまとめた。
進路指導	0.15	一年次の指導教員であるが，学生個々の希望を聞き取り，時期的な変化に対しても相談に乗って，落ちこぼれる学生がないように配慮する。	0.20	印鑑を押すだけではなく将来の計画，現在の取り組み，家庭の理解はあるかどうか，なるべく学生が今後の行く末を意識するように配慮した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中村　崇	所　属	理学部・海洋自然科学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.45	講義担当科目の内容充実を図る。担当実習では、サンゴ礁生態系をより体験的に理解できるよう、瀬底実験施設にて生物生産学実習VIIIと連携しつつ実施する。短期留学プログラム、APIセミナーなどでは留学生向けレクチャーを担当する。3・4年次の卒研指導および修士学生2名の修論研究指導を担当する。また、2年次の年次指導を充実させる。	0.35	共通教育科目・専門講義/実習について、おおむね目標が達成できたが、増加した出張に伴い、補講実施が増えるなど問題もあった。年次指導担当となっている生物系2年次へのメールリストによる情報配信、メール/面談による個別の指導・生活相談が実施できた。また、研究室配属の3・4年次、修士学生の卒論・修論指導に加え、ダブルディグリープログラムの修士留学生の研究指導を担当した。
研究	0.40	西原および瀬底実験施設での、サンゴ礁生物の代謝調整能力を明らかにするための実験および富営養化インパクト研究を進める。昨年度の研究成果は、単著および共著の論文として年度内受理を目指す。また、野外での長期継続調査を順次おこない、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリング調査および水質解析を進める。	0.45	予定していたサンゴの代謝調整能を明らかにするための実験研究を進めた。昨年度の研究成果については、単著の和文総説および英文の共著論文として受理・掲載が達成できた。また、野外での調査サイト設定を順次おこない、石西礁湖でのサンゴ個体群のモニタリング調査を実施した。6月からはJICA／JSTによるSATREPS研究代表者として、来年度からの実施に向けた準備を進めた。
社会貢献	0.05	日本サンゴ礁学会広報委員、評議員として、学会運営関わる。また、川口四郎博士による昭和20年代の和文業績英訳化プロジェクトWGのリーダーとして、学会誌特集号を準備する。沖縄生物学会庶務幹事として学会および大会運営をおこなう。公開講座および一般向け講座に積極的に関わり、大学での研究成果の社会還元を促進する。	0.05	日本サンゴ礁学会広報委員・評議員として学会運営関わりつつ、故川口四郎博士による和文業績の英訳化プロジェクトWGのリーダーとして、学会誌特集号を完成させた。沖縄生物学会では庶務幹事として学会および大会運営をおこなった。また、公開講座（台風で中止）、中・高修学旅行生へのサンゴ礁生物についてのレクチャーなど、研究成果の社会還元に積極的に関わることができた。
管理運営	0.05	学部（生物系）関連の学務担当に関わる。理学部の日韓共同理工系学部留学生事業実施委員、OIMAP運営委員、エコ推進委員を務める。また、運営委員として予算案・協定案作成や直接の折衝など各種業務を担当しつつ、ダブルディグリープログラムの推進に努める。	0.05	系学務担当、OIMAP運営委員、エコ推進委員を務めた。また、ダブルディグリープログラム運営委員として予算案・協定作成や関連大学での直接折衝など各種業務を担当した。担当していた系カリキュラム委員会では、案の提示のみにとどまり、具体的な成果を出せなかったことが反省される。
進路指導	0.05	二年次指導教員として、懇談会、研修のコーディネートや、履修登録および奨学金申請等を通した大学生活の基礎指導をおこなう。また、就職センターや保健管理センターと連携をとりつつ、現在配属されている学部生の卒業研究指導・進学・就職の相談に対応し、進路決定のサポートをおこなう。大学院修士課程の副査を担当する。	0.10	二年次指導教員として、年次懇談会実施、履修登録および奨学金申請等を通した大学生活全般の指導をおこなった。また、配属されている学部生の進学・就職の相談に対応するため、就職センターと連携をとりつつ、進路決定のサポートをおこなった。また、大学院生の副査を担当しつつ、特に研究室所属留学生について、奨学金・授業料免除などの申請補助をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	広瀬　裕一	所　属	理学部・海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	担当する学部の正規の授業は従来通り、加えて短期留学プログラムでも講義を提供する。大学院生（博士後期）の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。台湾の大学との合同野外実習のコーディネートを担当する。	0.15	担当の授業は短期留学プログラムを含め予定通り行った。台湾との合同野外実習のコーディネートを分担した。大学院生はそれぞれ学会発表や、論文投稿・発表の目標を達成した。愛媛大学・大学院の集中講義を非常勤講師として担当した。なお、主任として管理運営のウェイトが大きくなるため、大学院の講義（選択科目）は開講していない。
研究	0.20	現在投稿中・準備中の論文3件について受理を目指す。海洋島における藻類共生ホヤ相の調査や遺伝的変異について研究を進める。	0.20	今年度9編の論文を発表し（前年度に受理されていたものが含まれる）、4編が印刷中である。ハワイ・小笠原における藻類共生ホヤ相の調査を行った。生物模倣の視点からの共同研究もはじめている。
社会貢献	0.10	離島開催の教員免許更新講習講座を提供する。日本比較免疫学会役員（広報担当）として学会運営をサポートするとともに、社会へ研究情報を発信する。日本動物学会大会においてシンポジウムと一般公開の展示を企画する	0.10	教員免許更新講習については宮古島会場で講座を提供した。本学の公開講座を分担で担当した。日本比較免疫学会役員（広報担当）として学会運営をサポートした。与勝高校の出前授業を担当した。
管理運営	0.35	生物系主任として各種業務を担当するとともに、業務の省力化と系内WGの分掌再編を目指す。大学院学務WGにも協力する。	0.45	生物系主任として各種業務を担当した。会議の回数と時間の短縮はある程度実現できている。系内WGの分掌再編はまだ途上で、負担の不均衡の是正が必要である。4年次指導教員としても様々な学生対応を行ったが、担当年次生で留年・休学者があった。　大学院学務WGの業務も分担した。
進路指導	0.10	配属の学部4年次生の進路確定に努める。担当の教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。4年次指導教員として、進路相談、進路指導を行う。	0.10	配属の学部4年次生は大学院進学を希望しており、これに必要な指導を行った。担当の教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行った。4年次指導教員として、進路相談、進路指導を適宜行っているが、進路の確定していない学生もいる。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山崎秀雄	所　属	理学部・海洋自然科学科	職　名	教授 副学長 産官学連携推進機

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.05	研究室所属の大学院博士後期課程学生1名の卒業研究指導、および博士論文研究指導を滞りないように実施する。	0.05	博士後期課程学生1名について、博士論文研究指導を行い、現在、二篇の研究論文を準備中である。
研究	0.10	科学研究費補助金基盤研究（B）課題に関する研究内容の実施と、研究成果の出版を目標とする。	0.09	基盤研究（B)課題に関する研究課題を推進するため、米国ソノマ大学との国際共同研究を行い、成果を国際英文雑誌一篇に出版した。このほか、関連研究の成果を二篇の国際英文雑誌に出版した。
社会貢献	0.20	産学官連携推進機構の機構長として、機構を統括し、地域産業の活性化し資する本学主導プロジェクトの推進を目指す。重点課題として、健康バイオネットワーク形成事業の推進をおこなう。また、地域産業振興公社の評議員として、沖縄県の産業活性化の施策推進をおこなう。	0.15	産官学推進機構の機構長として、第5回学生ビジネスアイディアコンテスト、沖縄県健康バイオ産業推進事業および産学官連携関連事業の統括を行った。新沖縄県環境基本計画検討委員会委員として、次期基本計画策定を行った。沖縄県自然環境再生指針検討会では委員長として、指針の策定作業を行った。また、沖縄県グローバル人材育成海外短期研修事業では、科学指向の若手人材育成を行った。
管理運営	0.60	教育、研究、社会連携担当の副学長として、本学の教員免許全学組織の編成、生涯教育課程の見直し、ライジングスタープログラムの運営管理、産学官社会連携、OISTとの学学連携等の大学管理運営業務を統括し、本学の発展を推進する。副学部長として、学部教育委員会を統括し、理学部の教育活動の円滑な運営を行う。	0.70	副学長として、ライジングスタープログラムを統括し、最終成果発表シンポジウムおよび最終外部評価委員会会議を行った。教員養成課程の全学的組織の見直しを進め、沖縄県教育庁、学校長、大学長との意見交換を行い、連携体制の強化を実施した。関連して、沖縄県大学コンソーシアム構想およびCOC構想の準備調整を行った。副学部長として、理学部教育委員会を統括し、平成24年度年度計画実施に際し、学部独自事業を含めた形で実施した。
進路指導	0.05	本年に修了見込みの学生に関して、個別にキャリアパス教育を行い、修了後の進路指導をおこなう。	0.01	本年度修了予定の学生に対し、ノンリサーチ・キャリアの選択を含めて、メンタリングによるリサーチキャリアパス教育を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	竹村明洋	所　属	理学部・海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	共通教育科目（生命の科学など）及び学部専門科目（脊椎動物学など）を担当する。加えて短期留学プログラムでも講義を行う。 大学院科目（比較内分泌学特論、Advanced Comparative Endocrinology、Reproductive Physiologyなど）を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。	0.25	学部講義等として「生命の科学」と「脊椎動物学」、「熱帯生物生産学概論」、「沖縄のサンゴ礁」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」を、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」を担当した。加えて、短プロの一こまを担当した。研究室所属学生と投稿した3編の論文が国際学術雑誌に採択された。学生による学会発表は、国内外あわせて15回であった。
研究	0.30	昨年度獲得した外部資金による研究を計画通り進め、サンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国、フィリッピンおよびインドネシアの研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に行い、研究論文の採択を目指す。	0.30	外部資金として3種類の科研費（基盤研究A（一般研究）、基盤研究B（海外学術調査）、挑戦的萌芽研究）、そして韓国との二国間共同事業を獲得した。本年度の外部資金の獲得は、直接経費で1530万円であった。また、産学官連携推進ネットワーク形成事業（沖縄TLO）に採択され、沖電開発（株）と共同研究を始めた。インドネシア、韓国、フィリッピンを訪問し、共同研究を行った。共同研究の結果が4編の論文として出版された。化学同人から出版された「時間生物学」の一章を担当した。共同研究による学会発表は国内外合わせて7回であった。
社会貢献	0.15	県内外の中学・高校の総合学習等、そして教員免許講習講座に協力する。NPOや学会等の企画する実習や講演会に積極的に参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。	0.15	琉球大学主催の「太平洋島嶼域海洋環境シンポジウム」のシンポジウム実行委員として国際会議の企画運営に携わった。沖縄明治の製品「35コーヒー」のサンゴ礁の説明を監修した。また青森放送の「ニュートンのリンゴ」に出演してサンゴ礁生物を説明した。Bangladeshで開催されたBJSPSAA国際シンポジウムに招へいされPlenary lectureを行った。学術雑誌に投稿された論文（計20編；MEPS, BMC Biology, Marine Biology, Aquaculture, Chronobiology International, General and Comparative Endocrinology, Naturwissenschaftenなど）の査読を行った。昨年度から引き続き、Comparative Biochemistry and Physiology, Development & Reproduction、Open Jorunal of FisheriesのEditorial Board Memberとして雑誌の編集に携わった。教員免許講習の講師を務めた。公開講座を担当する予定であったが、台風で中止となった。
管理運営	0.25	学長補佐として本学の研究推進・戦略について学長・および担当副学長を補佐する。亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学テニュア・トラックのライジングスタープログラムの円滑な遂行のための管理運営を行う。また、理学部や所属学科系における各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加する。	0.25	亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として、全学情報システム運用委員会等に参加するとともに、テニュア・トラックプログラム所属の特命教員のとりまとめを行い、全員を部局へ推薦することができた。学長補佐として、秋入学検討委員会、国立大学のミッション再定義に係る検討委員会、平成25年度計画策定委員会（及び同ワーキンググループ）等に参加し、全学的な将来計画策定等に関わった。理学部や生物系では、それぞれ自己評価委員や広報などを担当し、学部や系の運営に携わった。
進路指導	0.05	3年次指導教員としてキャリア形成、進路相談、進路指導を行う。配属の学部4年生や大学院生の進路確定に努める。	0.05	3年次指導教員として就学や進路の相談にのった。研究室所属の学生（4名）の進路指導をし、大学院志望者に関しては京大（1名）と東北大（1名）が決定した。残り2名のうち、1名は東京の専門学校に決定した。一名は公務員志望であり、現時点では未決定である。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	立原一憲	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	講義の理解度を把握するため、毎回理解度チェック用紙を配布し、問題点があれば、次回の講義で補足説明を実施する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させるよう試みる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文投稿を促す。毎週、研究室在籍学生の学業の進捗状況を報告させる。	0.25	生物学概論：毎回の講義で分からなかったこと、疑問に感じたことを提出させ、件数の多かったもの、重要と思われる質問に対して補足説明を実施した。海洋生物生産学実習Ⅱ：県栽培漁業センターで大学で学んだことが実社会でどう生かされるかを体験させた。大学院教育：今年度の投稿数は8件であった。毎月曜日に前週の報告と次週の予定を話し、学生に具体的な目標を立てさせた。
研究	0.30	今年度は、4報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。少なくとも国際学会1、国内学会4の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究をさらに進展させる。依頼された国内外の論文査読を行い、研究の動向を把握する。	0.30	今年度は現時点で6報の論文が印刷された（達成率150%）。国際学会で2回、国内学会で10回の口頭もしくはポスター発表を行った。依頼された査読は、複数が重複した2件を除き、すべて引き受け、日本魚類学会英文誌の編集委員を務めた。博士後期課程4名、博士前期課程2名、学部生15名に生活史のテーマを与え研究中である。
社会貢献	0.30	外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも各月3回程度、年間36回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。各種学会の役員を引き受ける。	0.30	現時点（2月8日）で、78件（7-8件/月）の学外会議・審議委員会および民間企業へのアドバイスを行っている。沖縄の河川環境に関する講演（浦添市てだこホール）を引き受け、奄美大島で夏と冬各1回、子供たちに環境教育を実施した。魚類学会評議員・学会誌編集委員、水産増殖学会評議員、IPFC9委員として活動した。
管理運営	0.05	担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。	0.10	大学院学務として9月修了者を無事送り出し、現在3月修了の準備中である。
進路指導	0.05	卒業、修了予定者の進路に関して積極的に相談に乗り、具体的なアドバイスを行うとともに、必要に応じて推薦状を作成する。	0.05	担当する修士修了予定者2名に対し、就職アドバイスを行い、うち1名の来年度の職を斡旋した。学部生に関しては就職希望の2名を水族館に就職（1名は最終試験中）させた。進学希望の学生4名は、大学院に進学予定である。就職活動時に推薦状が必要なケースに関しては、全て作製した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。